

## 令和5年度総合計画審議会 議事録

日時：11月13日（月）13時～15時

場所：総社市総合福祉センター3階 大会議室

出席者：総合計画審議会委員17名

市長 片岡 聡一

副市長 中島 邦夫

教育長 久山 延司

政策監 難波 敏文

総合政策部 部長 梅田 政徳，総務部 部長 内田 和弘

市民生活部 部長 新谷 秀樹，産業部 部長 西川 茂

建設部 部長 河田 秀則，環境水道部 部長 三宅 伸明

消防本部 消防長 中山 利典

政策調整課 課長 岡本 紀子，課長補佐 前原 夕美子，

主事 藤本 直弘，主事 酒井 愛哉

欠席者：総合計画審議会委員5名

### ○事務局

定刻が参りましたので、令和5年度総合計画審議会を開催いたします。

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日の司会を務めさせていただきます政策調整課の酒井です。

よろしく願いいたします。

それでは次第に従いまして片岡聡一総社市長がご挨拶申し上げます。

### ○市長

皆さん今日はどうもありがとうございます。

先日の選挙におきまして当選をさせていただくこととなり、その当選直後の審議会ということとなります。新しい気持ちで新しいことをやろうと思って当選しておりますので、過去は忘れろとは言いませんが新しい総社市を皆とともに見出していく、発見していく、創っていくということをやりたいと思います。

今日は清水会長を始め、新たに委員に加わりいただく方が多数いらっしゃいますので、ちょっと私の思いとそしてこの審議会、そして総合計画そのものの意味合いについて認識をともにしたいと思います。

まず私が16年前に市長になったときに、前任者の後半部分、総合計画というのは前期5年・後期5年で成り立っておりますが、前任者竹内市長の後半部分を受け持つということになりました。総合計画は何かというところの総社市を作っていくバイブルであります。

したがって、総合計画にうたわれていなかったり、見解を異にするものは、市政としてやってはならない。今日は議員の方荒木議員・山名議員もお越しでございますが、これは必然の理として否決されるということになりますから、総合計画は総社市の基本指針の根幹の部分であると。この審議会は、一番上位に位置される、非常に重要な審議会ということになるわけです。

問題は私、片岡聡一が創る総合計画というものが前期5年、後期5年、市長に就任して2、3年目のことであったかと思いますが新しいバイブルを創ろうと私が提案しました。すると、そのときの総務部長さん職員さんは、どういう手法を取ろうとしたかというところ、この総合計画たるものを委託業者に丸投げをするということをやろうとしました。予算額が700万円だったと思います。

私はそれに対して、バイブルを創るために全国どこの市も使っている委託業者の習いによって我々は動くのかと。よく見たら、全国どこの市もこの会社を使っていて、当たり障りのないことを書こうとしている。それは当然です。議会が通らないような文言を使わないと、よく読むと緑のあふれるまち、笑顔あふれるまち、若者が汗かいたら報われる街とか、どれにでも当てはまるものを700万円で作ろうとしていたので私は、それはだめだと、もう藁半紙でも手書きでも鉛筆書きでもいい。我々職員が手に汗握って、これからやろうとする10年間をなぜ委託業者に任せるんだと言って市の職員との論争の末に、私が勝ち取った初めてのものです。丸投げにしないぞと委託業者との縁を切ったわけでありました。そしたらどうですか。うちの職員さんが作ったとしても、立派なものがちゃんとできるじゃないですか。今まで700万円で外部発注していたことを何をやっと思ったんだということでもあります。

まずはこれが我々の手作りによるこの審議会の総意による手作りで、総合計画は総社市のバイブルを作るんだということでもあります。

その上で、一つ大きな問題があります。我々は施策を創り行政を執行し、市民をリードしていく中で、二つの大きな役割を持つことになります。一つは、やはりちゃんとしたバイブルとしての機能です。我々の紐解くべきものがない行政なんかあり得ませんから、それに符合が一致するかどうかっていうバイブルを持たねばなりません。しかし一方で我々に一番求められている仕事はクイックなレスポンスです。災害があったときどうするか、

あるいは物価高騰がこれだけあったときどうするか、これを乗り越えるために、このバイブルを見ていたら、総社市は沈没すると思います。

そこで我々はどうしてきたかという、バイブルは基本的には前期5年、後期5年で手直しなしということでは、クイックにレスポンスできないのでコロナのときにはコロナの対応ができるように改善してきたわけです。それがないと市民が守れないんじゃないですか。前例にとらわれることなく、我々はクイックにレスポンスできる後期計画の3年目というものを審議してまとめ上げる必要があるということでもあります。バイブルは大切にしながら、その時々の問題に対応能力を持っていくということが大事であります。

最後に私が申し上げたいことは、この選挙選を通じて多くのいただいた意見、そして見てきた景色というものがございます。いくつか問題点がありますけれども、まず最初の一つは、配偶者を亡くした方がいっぱいいらっしゃるということです。一人暮らしの方が圧倒的に増えてきました。特に山間部。予想以上に高齢化が進み、孤独の辛さを味わって向き合ってる人が沢山いるということです。おそらくこれは、全国市町の中でも、孤独と向き合い、基礎自治体が孤独にどう向き合うかということは、新しい一つの市役所の大きな仕事だと思います。今まで以上にこの仕事は大きなものになると思います。

そして、総社市の中でもう一点は、東西格差、南北格差がさらに広がり、さらに大きくなっていこうとしていることでもあります。これは驚くほどの意識転換をしないと埋まらないと思います。多くの方々が感じていること、川西が埋没する。昭和が埋没する。池田が埋没する。これを是正していくために、東西格差を是正していくためには、例えば、市内の中心部に住んでいる人にはちょっと待ってくださいとそういう決めごとを作らなければなりません。それができるでしょうか。私は、将来の議会において、総社市の道づくりというのを、改めてやっていきたいと思っています。川西や昭和の道一本中に入った生活道。50年前のまま、40年前のまま、秦小学校の学区では、私が小学校に通っていた頃と同じ舗装。ポロポロという地域がたくさんあります。そこへ特化して、道直し予算1億円つけましょう。1億円道作ったら相当いきます。だけど、中心部の方は我慢してください。申し訳ないんですけどということが言えますか。それをみんなが全市で格差なくそうとして、進んでいけますか。私は、全市が一致団結して進んでいくべきだと思います。そのようなアグレッシブな変革。そこまでやっていいんですかのギリギリのところ。この難しい選択というものを総合計画のマイナーチェンジに盛り込みながら人口が増えていく形を作り続けるということが、我々の大切な課題になってくると思います。弱者を見捨てないでください。辺地僻地を見捨てないでください。みんなで盛り上げていけるだけの包容力を持って、意識改革をしていく。そして社会的に弱い立場にある人にもっと優しくできる市にしていきたいと思います。

最後になんですが、私は選挙の最終コーナーの謳い文句は、日本一優しい市役所を創ると申し上げてきました。日本一優しい市役所というのはそんじょそこらでできるものではありません。

私は、16年前に市長になった当初のときに、天満屋の伊原木社長にお願いをして、天満屋が一番いいわけじゃありませんけれども、天満屋ハピータウンリブ総社店の新入社員接遇の勉強会みたいなものに若手の市役所職員と一緒に私自身も行って、接遇の指導を受けておりました。総社市役所の職員さんと一緒に、天満屋ハピータウンに行って私が玄関でいらっしゃいませ、いらっしゃいませというのを半日ぐらいやっておりました。私はやっぱり、今一度労働組合さんとも話をして、接遇の基本優しさの言葉の基本そういうものをもう一度学び直す必要があると思っています。

そういう中で、本当に政治家の謳い文句ではない。全国で一番優しい市役所を目指しませんか。そういうマインドというものを持ちながら、クイックにレスポンスしていくだけの力を持たなければいけないと思っておりました、私は途中で邪魔な存在になりますので冒頭だけで皆さんに議論はお任せする立場にあるんですけども、どうかクイックにレスポンスするものとバイブル的な機能であるものを取捨選択しながら良い大綱を創っていただくようによくお願いを申し上げましてご挨拶といたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。

続きまして、総合計画審議会会長清水男様よりご挨拶お願いいたしたいと思えます。

#### ○清水会長

皆様にはお忙しいところをお繰り合わせご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日の会議は第2次総社市総合計画の7年目の進捗状況、そしてアンケートに対するご意見ご質問を伺う内容となっております。

さて、今年6月私の先祖の領地であった山口県光市の教育委員会から案内があつて行ってまいりました。そのときに徳山藩主の直系にお会いして、その方がユーチューブをしていたのでインタビューを受けまして、その内容はインターネットで「毛利チャンネル清水」と検索すると出ますので、よろしければ見ていただければと思います。

その中で紹介したのが、「朝起きや 上意算用 武具普請 人を遣ひてことをつしめ」その中の上意の意味は命令の意味です。君子というものが漢文で最初に習う、「学びて時に之を習う。」から始まり、最後に「人知らずして憤らず、また君子ならずや」で終わる文から、「自分がいくら正しいと思っても、人から非難されることもあるだろう。天も恨まず、人も恨まず、自分の正しいと思う道を歩むのが君主である。」という意味で

す。宗治が残した上意とはそういう君主が上司であれば従うし、またそういう上司になりなさいという意味だと我が家では解釈しています。

最後に皆様には総合計画について忌憚のないご意見をお願いして私の挨拶といたします。ありがとうございます。

○事務局

ありがとうございました。

続きまして、今年度初めて6名の方が委員として出席しておられます。皆様、大変お忙しい中、委員をご承諾いただきまして誠にありがとうございます。お手元に委嘱状をお配りしておりますので、令和6年10月28日の任期まで、どうぞよろしく願いいたします。それでは、お一人ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。順番によろしく願いいたします。

○コミュニティ地域づくり協議会 岡会長

よろしく願いいたします。

○岡山県立大学 佐藤副学長

岡山県立大学の佐藤と申します。ここ9年ぐらい社会連携の方を担当させていただいておまして、総社市の方々と一緒にいろいろ活動もさせていただいてまいりました。何かしらのお役に立つようなことができればと思っております。よろしく願いいたします。

○総社市地域自立支援協議会 小原会長

小原と申します。何分こういった会議に出るのは初めてでございます。分からないこともたくさんございますが、皆さんとともに考えていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○山陽新聞社倉敷本社常務取締役 仮谷代表

山陽新聞倉敷本社代表の仮谷と申します。どうぞよろしく願いをいたします。この3月から倉敷本社の代表を務めております。私は、総社の生まれ育ちでありますので幼小中高と総社で過ごしました。誰よりも愛着があるつもりでおりますのでどうぞよろしく願いいたします。

○総社青年会議所 太田理事長

一般社団法人総社青年会議所本年度理事長を務めております太田と申します。

青年会議所ではこの総社市を明るく豊かなまちの実現に向けて活動しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○晴れの国岡山農業協同組合 茅原理事

失礼いたします。晴れの国岡山農業協同組合の理事をしております茅原と申します。

役員の交代がありまして、この夏より総社の担当として務めさせていただいております。理事と言いましても非常勤ですので、普段は茄子を作っている農家でございます。私の立場や目線が何かのお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○日本労働組合総連合会岡山県連合会総社地域連絡会 木村代表

日本労働組合岡山連合の総社地域を代表させていただいてます木村です。7月からさせていただいてますので皆さんよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。皆様、令和6年10月28日の任期まで、どうぞよろしくお願いいたします。

ここで申し訳ございませんが、片岡市長は公務のため退席させていただきます。

それでは、ここからの進行は清水会長よりよろしくお願いいたします。

○議長

それではご指名いただきましたので僭越ではございますが、ここからは私が議長とさせていただきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、次第の4、報告事項①第2次総社市総合計画後期基本計画の改訂につきまして、事務局から説明をお願いします。

○事務局（総合政策部長）

はい、ありがとうございます。それではよろしくお願いいたします。

私も本年4月から総合政策部長ということでこの会議初めてになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど片岡市長の方からもございましたけれども、この総合計画審議会ですが、市の基本的な方針、方向性を決定づけるということで大変重要な会議というふうに認識をしております。委員の皆様方におかれましては、その豊富な知見それから経験をもとにこの審議会での議論を活発に行っていただければと思ってございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから冒頭から申し訳ございませんけれど、一部お詫びをさせていただければと思います。本日資料を事前にお届けをさせていただいておりますけれども、配送の日程が直前になってしまったということもございまして、ギリギリで届いた方、それから一部の方には届かなかったというようなことがございました。この点こちら事務局として大変申し訳ございませんでした。お詫びをさせていただきます。

それでは、これから説明に入っていきたいと思います。簡単に趣旨をご説明させていただきます。先ほどの片岡市長からの説明、挨拶とも重なる部分もありますが少しご説明をさせていただきます。

この総合計画審議会でございますけれども、本市のまちづくりの指針となる総合計画等に関する事項について調査審議をいただくという市長の諮問機関ということになってございます。この第2次基本計画の後期計画ということでございますけれども、後期計画につきましては令和3年度から令和7年度までというような期間ということになってございまして現在、ちょうど後期計画の中間地点というようなところになってございます。

本日の会議は、その進捗状況をはかるということで市民満足度調査の結果、それから重要業績評価指標 KPI を事務局からご報告をさせていただきまして、委員の皆様にご意見、ご議論をいただければというふうに思っております。

この総合計画ということでございますけれども施策を練っていくという意味では非常に重要になってくるかなというふうに思っています。

最近の行政ということで皆さん EBPM というところでいわゆる証拠に基づく、施策形成を図っていく必要があるというのが大きなテーマというふうになってございます。

本日、事務局からご説明をさせていただく満足度の結果を非常にその中の重要なデータの一つになるというふうに考えておりますので、こういったデータも参考にしながら今後、市としてどのような分野にどういった資源を投入していくかこういうようなことを皆様方にもご検討ご議論をいただけると幸いです。

また、令和7年度までが後期計画の期間というふうになってございますので、令和8年度から始まる第3次総合計画これの策定に向けての議論というのも、来年度から始めていくということになります。これも目の前というところまで来ておりますので、またそれを見据えながら、皆様にご議論をいただければ幸いです。

以上で簡単ではございますけれども本日の会議の趣旨ということでご説明をさせていただきました。この後の資料について政策調整課長の岡本からご説明を申し上げます。

#### ○事務局（政策調整課長）

失礼いたします。政策調整課長の岡本でございます。よろしくお願いいたします。

それでは次第の4、報告事項①について私の方からご説明をさせていただきます。本日もお配りしております資料、こちらのカラーになります、第2次総社市総合計画後期基本計画、令和5年度改訂版（案）をご覧ください。

この度の改訂につきましては、より具体的に事業化された施策の実施に向けた検討がスタートしている重要施策を基本計画に明記、位置付けることで基本構想の実現に向けた施策として計画的に実施していこうとするものでございます。

資料の裏面をご覧くださいと思います。こちらの改訂内容についてですが、「基本目標③誰もが安心して学びたくなる総社」の施策項目「01 学校幼児教育～誰もが行きたくなる学校をつくる」にあります「●人口減少地域の教育の充実」この中の項目であります、「幼稚園併設型義務教育学校の設置と教育活動の充実」というこの文言を変更後の赤字で示しております。「・昭和五つ星学園義務教育学校・幼稚園（山の中の環境留学・英語教育・12年間の一貫教育）の教育活動の充実と全国公募による地域活性化の推進」という文言に変更しようとするものでございます。

こちらにつきましては、少子化人口減少が進んでいます昭和維新地区にある昭和中学校・昭和小学校・昭和幼稚園・維新小学校、維新幼稚園の五つを再編成した昭和五つ星学園義務教育学校幼稚園が令和6年4月に開校、環境、英語、一貫教育の三つを柱に教育活動の充実を図るとともに全国から児童生徒を募集し、地域の活性化にも繋がるよう施策を進めているものでございます。

次に、施策の項目「03 スポーツ・文化・生涯学習～生涯学び、スポーツする」の中の「●貴重な文化財を守り、文化芸術を身近に」の中に新規に追加としまして、「・史跡作山古墳等の調査、保存、活用を検討」というものを追加させていただくものでございます。こちらにつきましては作山古墳を初めとする市内の貴重な文化財の調査活用検討し、総社市の文化的クオリティをさらに押し上げていくための施策を進めようとするものでございます。基本計画の改訂案についての説明は以上でございます。

#### ○議長

ただいま説明ありました、第二次総社市総合計画後期基本計画の改訂につきまして、委員の皆様からご意見ご質問がございますでしょうか。なおこの後の報告事項②の説明後に委員の方お1人ずつからご意見を伺いますので、ここでは後期基本計画の改定についてのみのご意見をお伺いいたします。ご意見ご質問ある方、いらっしゃいますでしょうか。

#### ○観光協会 佐野会長

五つ星学園の義務教育のとなんですけど、全国公募による地域活性化の推進とありますが、これは察とかそういうものは考えて、どういうふうにならなくて、中学生まで



ですよね。そうすると下宿とか、家族で移住してくるとか、寮併設で寮に住んでもらうとか、そういう計画があるんでしょうか。

○久山教育長

失礼いたします。教育長の久山と申します。よろしく申し上げます。

昭和五つ星学園義務教育学校の全国公募ということでございますが実はこれは、五つ星学園になるから全国公募というPRの仕方としてこのようにPRしておりますが、実はこれはこれまでも英語特区、この地域は英語特区ということで指定されております。従いまして、これまでも学区を越えて入学することができたわけでございます。これは小学校も中学校も同じでございます。これに新たに山の中の環境留学ということで環境教育を特色として入れた英語プラス環境ということを特色として入れたということでございます。

寮や下宿などの準備についてのご質問でございますが、これまでもそういうものはしておりませんので、この五つ星学園の設置に合わせてそういうものを用意するという事は考えておりません。しかし、空き家の紹介ですとかそういうことは積極的に行っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○観光協会 佐野会長

すみません。全国公募っていうのはちょっとやめた方がいいんじゃないですか。受け皿ができてない状況で全国公募っていうのはちょっと大胆すぎて、親子で子供だけ預けるとなれば、やっぱり寮とか下宿とかが必要になってくる。受け皿もないのに全国公募をするっていうのはちょっと無理があるような気がしますけど、今までやってこられたのは県内で通学が可能な人だと私は認識してますけど、これが全国公募となるとやはり住まいとかが必要になってくると思いますので、その辺もちゃんと考えて全国公募っていうPRをした方がいいと思います。

○久山教育長

はい。ありがとうございます。

これまでの状況でございますが市外県外から移住ということで、この地域に昭和地区の小中学校、幼稚園に通えるといいますか、そこへ行くために移住してこられた方が21世帯36名ございます。これはいろいろな移住の仕方でございますがそういう状況から考えてこれからも移住を促進していきたい。学区外も含めて通学だけでなく移住ということも推進していきたい。そういう意味で全国公募という言葉を使わせていただいております。そういうことで先ほどのご意見を参考にさせていただきますが、そういう意味でございますのでご理解いただけたらと思います。以上でございます。

○観光協会 佐野会長

分かったような分からないような回答なんですけど、全国公募とあげる以上はやっぱり移住したらこの五つ星学園に入りますよとかその方がいいんじゃないんですかね。ただ、五つ星学園義務教育学校で全国公募するっていうようになれば、それなりのやはり下ごしらえというか、下宿とか寮とか、完備されて初めて全国公募となると思いますので、移住イコール全国公募はちょっと違うような気がするんですけどいかがでしょうか。

○久山教育長

ありがとうございます。新しいものを作るためにPRの仕方としてこういう言葉をあえて使わせていただいております。これまでと何が変わったのかというと変わってないのだからかなり大胆な言葉の使い方だとは思いますが、いずれにしても昭和地区への移住だけでなく、例えば県外からこの中心部に転居して来られた方が学区外から昭和地区の五つ星学園に行くことも可能でございます。そういう意味で幅広く全国から募集しますよということでございます。以上でございます。

○総合政策部 梅田部長

すみません。総合政策部長でございます。ただいま教育長からご説明ありましたけれども今、佐野さんからお話あったように全国公募する上で住まいの確保というの重要だよねというようなご指摘かなというふうに思ってます。現在教育長からお話あったように今のところ寮であるとかそういったものの準備というところまでできておりませんが、私どもの総合政策部で昭和地区などの人口減少地区に何とか人に入ってもらって活性化をしていこうという中でそれこそ空き家を利活用して住まいを提供するであるとか、そういうようなところのご相談にもしっかり乗っていくことで全国から来ていただいた人に住まいというところも、我々市役所として相談に乗っていくというようなことかなというふうには思っております。ただそれがちょっと大きく出すぎんじゃないかというようなお話もあるかなというふうには思っておりますけれどもその辺り住まいの確保という点も非常に重要な点かなというふうに思っておりますので、教育委員会と地域の方とも連携をしてこの全国公募というところで何とか全国から人に来ていただくように努力をしたいなというふうに思っております。以上でございます。よろしいでしょうか。

○観光協会 佐野会長

わかりました。

○議長

他にはご意見ございませんか。

○シルバー人材センター 岡理事長

今のお話を聞いてますと、手段と目的ということで、何か人口減少地域へ移住してもらうことを目的に学校を作っているように聞こえます。なので、目的はどのような子供を人間形成してどういう格好で教育してどうやっていくかということが目的じゃないかと思います。当然一貫教育をさせていただいて人間形成をしていくというのが目的だと思うんですけど、お話を聞けば、ここが過疎地域だからこの地域に移住してもらってこんなことやってというように聞こえるんですけども。そういったコンセプト等を全国発信するのであれば、こういう目的で人間形成するからこういう教育をしますよ、だから移住してくださいというのが本当じゃないかなというふうに私は思います。ただ単にこれやって教育活動の充実と全国公募をやりますよというだけでは何かちょっと欠けてくるのかなというふうに思います。その辺いかがでしょうか。お願いします。

○久山教育長

ありがとうございます。

目的があって教育活動の充実や全国公募などがあるべきではないか、明確になっていないのではないかというご指摘だと思います。今のご意見、参考にさせていただいて、目的をもっとはっきりするように今おっしゃっていただいたことが目的でございますので、そのあたりをはっきりするようにしていきたいと思います。ありがとうございました。

○議長

他にはございませんか。ございませんので、続きまして4報告事項②、(1)市民満足度調査結果につきまして事務局から説明をお願いします。

○事務局（政策調整課長）

それでは報告事項②、(1)市民満足度調査結果についてご説明をさせていただきます。この市民満足度調査は、総合計画の基本目標や重要施策の評価を確認するため毎年行っているものでございます。

まず、資料①市民満足度調査結果の1ページをお開きください。こちら調査の概要ですが、令和5年5月22日から6月30日までの約1ヶ月間、18歳から75歳までの男女2000人を対象に実施をしております。有効回答数は1227人、回答率は61.4%でした。

続きまして、2ページから4ページにつきまして回答者の属性を記載しております。約3割の方が総社市内に就学勤務されており、自家用車利用の方は約6割となっております。また、4ページになりますが、居住年数が10年以上の方が約8割を占める結果となっております。

次に5ページ、総社市への愛着度についてでございます。「とても愛着を感じている」が34.7%、「どちらかという愛着を感じている」が45.4%と合わせて80.1%の方が愛着を感じていると回答しています。昨年度は81.7%でしたので、微減ではありますが、高い数値を維持した結果となっております。また、下段のこれからの総社市に住みたいかとの問いでは、「住みたい」「どちらかと言えば住みたい」と回答した方が83.2%となっており、こちらも昨年度の85%よりは1.8%減となっておりますが、高い数字を維持した結果となっております。

続きまして6ページについてです。こちら、総社市に住みたい理由としまして、「買い物や市民の移動など日常生活が便利だから」「住み慣れた家土地だから」と約半数の方が回答をしています。また、下段の住みたくない理由では、「交通の便の悪さ」「買い物や市内の移動など日常生活の不便さ」が多くなっております。このことから、移動や交通の便といったところが住みたい住みたくないの理由の大きな要因になっていると考えられます。

次に7ページ、市政への関心についてですが、「大いに関心がある」「まあまあ関心がある」の合計が56.7%となっております。また、下段の生活に必要な地域の情報を得る手段については、「広報そうじゃ」が89.5%と非常に高くなっていますが、「新聞テレビの地域ニュース」が47%で前年より8.1%の増、「公式SNS」が39.1%で前年度より8.4%の増と大幅に増加しており、SNS等での情報発信が今後ますます重要になると考えられます。

続きまして、8ページをお開きください。市政に市民の意見が反映されているかという問いに、42.7%が「反映されている」と回答しています。次の総社市に力を入れてほしい施策の分野では、「子育て、健康医療、高齢者福祉、障がい者児支援、ひきこもり支援」が46.5%と半数近くになっており、関心の高さがうかがえます。

9ページ以降については、行政施策ごとの満足度を記載しております。時間の都合により概要を説明をさせていただきます。本日お配りしております上位順位を表にした横の表が別でお配りしていると思いますがそちらをご覧くださいませでしょうか。

こちら1ページ目が満足している、どちらかといえば満足していると回答した上位10位ですが、「感染症対策」や「観光整備やイベントの充実」「検診や健康診査やがん検診の受診体制」など、前年度と割合順位ともおおむね同様の結果となっております。

2ページ目になりますが、不満である、どちらかといえば不満であるとの回答割合が高い施策では、「公共交通利便性の向上」「医療体制の充実」「都市基盤の整備（道路などの整備）」また「主体的な土地利用の促進」について不満の回答割合が15%を超える結果となっております。これらの施策についてはその結果を真摯に受け止め、改善策等を検討する必要があると考えております。

また、3 ページ目には全く知らないと回答した割合が高い施策を記載しております。「子ども虐待ゼロのまちの実現」「ひきこもり支援」「支援が必要な家庭と子どもを応援」などとなっています。これらは昨年度も全く知らないと回答した率が高かった施策となっておりますので、今後もより一層必要な方へ必要な情報が届くよう、情報発信に力を入れてまいります。

続きまして、資料②をご覧ください。こちらは昨年度から集計を始めたものですが、アンケートの各設問を年齢別、小学校区別でクロス集計したものになります。回答者数の少ない年代や学区もありますので、あくまで参考としてご覧いただければと思います。時間の都合で設問ごとの説明は省略させていただきますが、少しご紹介させていただきます。

18 ページをお開きください。こちらは不満、どちらかといえば不満と回答した割合が一番高かった「公共交通の利便性の向上」という設問です。全体での不満の割合は 22.6%でしたが、下段の小学校区別の割合を見ますと、維新小学校区では 45.5%、池田小学校区では 40%と非常に高い割合が不満と答えていらっしゃいます。

また、7 ページをお開き願います。こちらは「子育て施策全般」についての問いでございます。こちらでは当事者世代である 30 代、40 代の方の満足、どちらかといえば満足の割合ですが、30 代の方で 48.4%、40 代で 56.3%と、全体の満足度 43.9%より高い結果となっております。

一方、次ページの 9 ページになりますが、「保育園等を利用できる環境整備」のところでは不満、どちらかといえば不満の割合が 30 代では 20.2%、40 代では 12.1%と全体の 10%より高い結果となっております。このようなアンケート集計からの傾向分析結果も、今後の施策の参考としていきたいと考えております。

続きまして、資料の③をご覧ください。こちらはアンケート問 7 の市役所に特に力を入れてほしい施策の分野を選んだ理由を記述式で回答していただいたものでございます。その中の主なご意見をまとめております。

時間の都合上、特にご意見が多かったものを申し上げますと、子育て分野 2 ページ、3 ページになりますが、こちらでは保育園や学童について、3 ページの健康医療分野では、医療機関の充実について、6 ページからの住宅都市基盤、交通公共交通などの分野では、駅周辺や土地利用、雪舟くんについて、13 ページの学校幼児教育分野では学校教育の充実や特別支援教育についてのご意見がありました。

また、資料④につきましては、市政に対するご意見ご提案の記述式のものを主なものをまとめております。

こちらは時間の都合で説明を省略させていただきますが、いただいた貴重なご意見ご提案は全て市役所全体で共有し、各施策への反映などを検討してまいります。市民満足度調査結果の報告は以上となります。

○議長

それでは報告事項 2-2 重要業績評価指数 KPI の進捗状況につきまして、続けて事務局から説明をお願いします。

○事務局（政策調整課長）

失礼いたします。引き続き、（2）重要業績評価指数、KPI の進捗についてご説明をさせていただきます。

資料⑤をご覧ください。こちらは KPI の令和 4 年度確定値、実績値の達成率を表の左から 5 列目の欄に達成率を記載しておりますのでそちらをご覧くださいと思います。全体では達成率が 100%以上となった項目は、昨年度より 2 項目増えております。また、49.9%以下、△△ですが、これについては 2 項目減っているという結果になっております。達成率が低かったものにつきましては、令和 3 年度と同様に、コロナ禍の影響により事業の実施ができなかったなどの理由により達成率が低くなっている項目が多くなっております。

1 項目ごとの説明は省略させていただきますが、特に重要な項目としましては、1 ページ目の一番上の基本目標とあるところですが、人口の増加数であります。こちら令和 4 年度の確定値が 183 人の年間純減となっております。

また一方、2 ページ目をお開きいただきまして、②の欄の下から二つ目は、お試し住宅利用から転入に繋がった人数というところでは達成率が 126.7%となるなど、総社流の移住定住施策の効果も実感しつつあるという結果になっていると考えております。また、今年度に入り人口は増加傾向にありますが、危機感を持って引き続き対策を講じてまいりたいと考えております。

その他ですが、1 ページの認知症サポーターの数や、3 ページの高校進学を希望するワンステップ受講者の進学率につきまして新たに達成率 100%を超えております。こうした 1 人 1 人に寄り添う施策の推進により、住みたい住み続けたいまちに選ばれ、人口減少に歯止めをかけられるよう取り組んでまいりたいと思います。説明は以上でございます。

○議長

ここからは皆様にご意見を伺うわけですが、順番としましては風早会長から始まりまして、小原さん、それから仮谷さんに飛んでこちらに最後、茅原さんこの順番でいきたいと思います。1 人 2 分程度と人数も多いですし時間も決められていますので 2 分ということでご意見、またご感想等をお願いいたします。それでは風早さんからお願いします。

○社会福祉協議会 風早会長

総社市社協の風早でございます。

トップバッターというのは何を言えればいいかなかなかまとまらないんですが、まずいろいろと資料をいただいたものを斜め読みだけしかできてないんですが、そういう中で一つは前年度の結果をどう分析して、何が一番今年度成果がでたかを教えてください。

それから今回の結果から、今後これをどう活かしていくかが本当に大事なことなんですが、そう思ったときに子育て王国とか、あるいは先ほど市長もおっしゃいましたが人口減少高齢化が進んでいる東西の格差、南北の格差、そういうものをこれから具体的に組み組んでいく上で、私はもう少しその地域に対する追跡的な調査、アンケート、聞き込みをしっかりとやっていく必要があると思います。そういう中で具体的な課題に取り組めるよう、そこに住んでいる人と直接繋がるような課題を見つけて、それをしっかりと洗い出していく必要があるんじゃないかなと思いました。

また、子育て王国と言いながら、総社へやってきたら、全く他と同じじゃないか。フレーズはいくらでもいいのが作れるんですが、やっぱりそれを本当に子育て王国だというものにするには具体的な課題をしっかりと見つける必要があるんじゃないかなと思いました。クロス集計というのは去年からやっておられて、これはすごく課題を見つけやすいんじゃないかと思いますが、そういう中で学校によって満足度ゼロのところがあります。これは調査アンケートの対象の人がそこにいなかったりいろんなことがあると思いますから、余計にその地域を特化して調べてみる必要があるろうと思います。

それからもう一つは、調査の全く知らないというのが大体20%~30%おられる。これはもう裏返して考えると、総社市がやっている我々もそうなんですが、やっていることと、市民との間の乖離が激しい部分がある。これはやはり情報が共有できるような仕組みをやっていかなきゃいけない。先ほど課長さんのお話の中にあっただけ必要の人にはということではなく、大勢の人がそれを理解して今の施策を理解していかないとなかなかグリーンの棒グラフの部分が縮まらない。私はそこも主としてやるべきじゃないかなというぐらいに思っております。

そういう中で具体的なやる事が決まって、私達福祉部門と一緒にやらなきゃいけないことをはっきりと洗い出ささせて、それをまた頑張っていかなきゃいけないという我々も意識を持っておりますのでよろしくお願いします。以上です。

#### ○観光協会 佐野会長

総社市観光協会の佐野です。よろしくお願いいたします。

アンケート結果で風早会長とのダブリもあるんですけど知らないというのは、少し多いかなというのがありますので、その辺の施策をどういうふうにしていくかなということと施策としてアンケートは十分取ってるんですけど、そのアンケートに沿った施策は何かあってというのがちょっと見えてこないというのがありますので、その辺を見える化していただければなと思います。

それと KPI のところで認知症サポーターの数やいきいき百歳体操、特に認知症サポーターの数が 101.6%の達成度なんですけど、そうではない認知症の方はどのぐらい居てどんな活動をしてるのかっていうのもちょっと知りたいなっていうところです。これは、認知症に限らず障がい者もそうなんですけど、具体的にどういう施策をしてどういう結果になっているのかっていうのもちょっと知りたいところです。

あと都市計画として青写真が全然見えてこないっていうのもありますので、その辺をちょっと見える化していただければと思います。

先ほど風早会長も言いましたけど、子育て王国って名前はいいんですけどやはり総社に来て保育園に入れない、保育園に入るためには就職してくださいよなどちょっと矛盾したようなこともありますので、その辺をどのような対応して、待機児童がどのぐらいいるのかなど知りたいと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。

#### ○婦人協議会 勘藤副会長

失礼いたします。今年度から始めて参加させてもらって、ちょっとよくわからないんですが、先ほど子育てって言われたんですが春休みと夏休みにお母さんが働かれています、預かるところが北小だけになってるんじゃないかなと思います。大勢で困ってらっしゃったのを経験しましたので、私も朝 7 時半から 2 時間ほど来て欲しいと言われて参加させてもらったんですが、大勢の人を 1 ヶ所で預かっておられたのがびっくりしたんです。その程度でよくわかりませんが、失礼いたします。

#### ○消防団 荒木団長

消防団長の荒木でございます。

私の方からは安全安心な総社市を作るために消防防災これからも一生懸命頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします

#### ○コミュニティ地域づくり協議会 岡会長

岡です。この度初めて参加させていただきまして、中身がまだはっきりわかっておりません。

昨日ですが、三須分館の文化祭をやったんですが、子供をいかにたくさん寄せて、それでいろいろ子供に良い印象を与えたらいいんじゃないかということで子供が 100 人ぐらい、全体で 500 人ぐらい来られたんですけど、子供が大勢集まって非常に良かったんじゃないかと思います。

また老人クラブもやっているのですが、高齢化が進み、平均年齢が 78 歳くらいになっています。そういう方は、やはり運動不足で足腰が弱っている方とグランドゴルフに常時来られる人ではやはり体力等に違いが生まれると思います。また、ひきこもりが多く、高



齢者の方が出てこないという人がかなりおります。そういう方は、外へ出て運動していただいて、少しでも長生きしてもらわないといけないということです。以上です。

○PTA 連合協議会 中田副会長

総社市 PTA 連合協議会の中田と申します。

昨年もこの会に参加させていただいて子育て王国という看板って何だろうというお話になりました。私もそれは PTA の中でも問題というか子育て王国って言っているわりにはという話題になります。記述式の意見の中に書いてある通りで、幼稚園に入れてあげたいけど預かってもらえないから保育園だな。保育園でもいっぱいだから、仕事あるけどどうしようって悩んで子育て大国なのに子育てできないという矛盾が生じることがやっぱり不満足度に繋がっていくんじゃないかなっていうことがまず小さいお子さんを持たれてる方、そして小学校に通うお子さんがいる方はやはり夏休みとか冬休みの学童問題があると思うので、そちらも預かっていただける場所の提供、遊びの場の提供っていう場があるかないか。それを選択するのは保護者の方なんですけど安心材料があるかないかで、子育て王国の看板が光るか光らないかになっていくんではないかなというのは思います。やはり個別に子育て王国って言ってる割にはっていうのを市民の方は思われていて、他の市町村の方が保育料が低かったり、医療費がもっと上の年齢まで無料だったりなど、他の自治体の方が良いという話も耳にします。なので何が子育て王国なのっていうところをもうちょっと見える化してほしいです。

ただ、幼稚園の給食費や給食の開始をすることはとてもよかったなと思っておりますし、医療費もちょっと無料にさせていただいて、インフルエンザの補助金もちょっとさせていただいたのは本当助かるなというところは思いました。

あと個人的なんですけど、私昭和地区に住んでおまして五つ星学園の開校に向けての準備委員会にも入っております。ここでも英語特区という割にはっていうのを9年間ずっと言われ続けておりました。今回五つ星学園の開校をすることで、山間教育っていう割にはとか、全国公募って言ってる割にはとか、PR の割に入った方はどう思われるんだろうってというのがちょっと不安なところでもあります。というのが中に入っている私達はそこのギャップを持ってこられた方との気持ちのせめぎ合いがあります。そこが教師も保護者も戸惑うところが多くって、住んでる私達からすれば、ちょっと英語がよくなるからいいけれど、もっと上を目指してこられる方は、この PR をもっといいものとして見られるので、そのギャップをなんとかしてほしいのは個人的に思っているところです。

そこを説明していただければなというのが、学校が悪い保護者が悪いっていうふうに最終的になってしまうので、やさしい街、やさしい学校にならないと思うので、その PR とやっていることが矛盾しない良い方法をとっていただきたいなと個人的には思います。

○岡山県立大学 佐藤副学長

岡山県立大学の佐藤でございます。今年初めて出席させていただいてまだ資料の方じっくり見る時間がありませんでしたので詳しいことは述べることはできませんが一つ気になったのが満足度調査の愛着度です。一番最初にあるデータですが大体8割前後ぐらいが愛着を感じていて、これからも総社市に住みたいかというところの回答も大体8割前後ぐらいなんですが、10代の住みたいって言っているところだけ下がってるんです。6割ぐらい下がってるっていう、これは一体何だろうと思いました。また、他の年代は大体8割前後で統計的にはあまり差異はないのかなと思うんですけども、ちょっと10代が下がるっていうところはここ要因はなんだろうっていうところを探っていくかないといけないんじゃないのかなっていう感じはしております。

それから先ほどもご意見がございましたが、いわゆるこういう調査をやってこのぐらいの評判が良かったよっていう結論は出るんですけども、おそらくそこで止まってしまう。やはり施策は、例えば昨年度の全てが成功するわけではないので、必ず失敗するものが出てくるんですけども、その原因が何だったんだろうっていうことを多分明らかにするためにこういうアンケート調査ってあるはずなんですね。ですから、施策でこのアンケートの項目はどのくらい合ってるんだろうっていうのはちょっと私も全てを見てるわけじゃわからないんですけど、すぐフィードバックできるような何かアンケート項目などを設定されてると思いますけれども、それが施策にフィードバックできるような結果が出てのかっていうのは検討されてた方がいいのかなというふうには思います。

それからちょっと一つ前の報告になりますけれども、基本目標の項目の変更のところでもございましたけど、おそらく人口減少地域の教育の充実っていうものを新たな項目として追加しましたっていう、その項目のところを詳しくしたっていうのがおそらく本年の変更の内容だと思います。それでおそらく全国公募することによって外からのいろんな風を入れていくっていう意味で全国公募っていうふうなことを位置づけられたのかなというふうに思いますので、人口減少地域の教育の充実そういう点では、それに合った内容ではないかなと私は思いました。しかし、例えば家族で総社に移住しないと入れないということになると、かなり敷居は高くなって、やはり子供だけっていうものを受け入れるっていうふうにしなないとなかなかこの制度、施策の効果は出ないのかなというふうには感じました。以上になります。

○地域自立支援協議会 小原会長

自立支援協議会の小原と申します。

自立支援協議会というのは障がい者の方が地域で暮らす中に共生社会の実現を目指しましょうということで集まって議論している会でございます。そういった中で今回の資料の資料③と④の記述のところの「障がい者・児福祉」というところで3つ、5つほど記述が

ございます。これだけではないとは思いますが、これからも自立支援協議会において、こういった皆さんの悩みと言いましょか、こういうふうになってほしいなというようなことがまたこれからもいっぱい出てくるように自立支援協議会の中でしっかりと議論を重ねて、また総社市の福祉課とも連携しながら、こういった不安などが少しでもなくなって、障がい者にとって住みよいまちづくり、安心安全に暮らしていきますよというようなことに向けていけたらいいなというふうにこの資料を見て感じております。これからもしっかりとこういった障害者の方の思いというものを考えながら施策に向けて取り組んでいきたいというふうに思います。よろしくお願ひいたします。

○議長

続きまして、仮谷委員ですけれど今日は早く退出ということで仮谷委員については、その後、市の方から説明をしていただこうと思います。よろしくお願ひします。

○山陽新聞社倉敷本社 仮谷代表

申し訳ございません。それでは私の方から「不満足」のお話もあつたのですが、アンケートを通してみると、満足度が比較的高い良い街だなという感じがいたします。関心が高いのはやはり医療福祉とかそういったところで、これからの高齢化社会のことを考えると当然かと思ひます。総合病院とか市民病院が欲しいとかそういう意見もありますけれどもあまり現実的ではないと思ひますので、川崎それから倉中辺りと上手く連携をしていく、川崎・倉中は役割分担をしたいと言つておられるので、そのあたりの連携をどうしていくか、この連携という言葉簡単ですけど具体的にどうするのっていうところをきちんと市民の方に示さないとなつてもらえないのかなと思つてます。

それからもう一点、住みやすい地域であるっていうんですけども私は、南部地域の話かなと思つてるので、私の知つてるところはやはり買い物も子育ても大変だし、そうした格差があるのはもう当然なことなので市長も最初言つておられましたけれども、少しでもその格差が解消できるように、言葉で言うのは簡単ですけども、解決ができるように努めていただきたいなと思つております。以上です。

○議長

それではこれにつきましてご回答の方お願ひします。

○事務局（総合政策部長）

それでは仮谷委員からのご質問ご意見についてだけまず先にお話をさせていただきます。ご指摘いただいたようにまず満足度全体的に高いということで市民の皆様はこの行政サービス、ある程度は届いているのかなというふうには思っています。一方で医療福祉の分野というところ関心度が高いということでいろんなご意見ですね。総合病院ほしいであるとかありますけれどももちろんその隣の市である倉敷市であるとかそういうところとも医療の連携というのをしっかりしていくというのは市の方針としてもございます。またその中で、長野病院それから薬師寺慈恵病院、こういったところへの病院支援というようなことも行いながらその役割分担もしっかりして医療提供体制を充実をさせていくということかなというふうには思っています。

それから住みやすいというところ、やっぱり南部地域の話ということかとは思いますがけれども冒頭、市長からもありましたけれども南部以外の地域というところもですね、生活利便性の向上というのをしっかり果していかなければならないかなというふうには考えてございます。以上でございます。

#### ○議長

先ほど質問ありました川大・倉中との連携ということで、今まで総社市もおそらくある程度、消防署も含めてしてると思うんですけども、そこら辺ちょっと説明をいただけますでしょうか。

#### ○中山消防長

はい失礼いたします。消防長の中山と申します。

川崎医大それから倉敷中央病院の搬送状況についてでありますけれども、平成30年ぐらいまで倉敷中央病院には年間1000人の方を搬送しておりました。川崎医大が平成30年のときには約500名搬送して、2つの病院で1500名程度お世話になっているところでもありますけれども、ここに来て長野病院もできまして、また救急という専門分野の先生も総社市で今活躍するようになってきまして、市外搬送率が平成30年、令和2年ぐらいまで70%を超えていましたが、ここへ来て50%ぐらいまで下がるようになりました。ということで総社市管内の病院と川崎医大や倉敷中央病院、3次救急病院と役割分担、まずは総社市内の2次救急病院で診れる方は診る。そして最初から心筋梗塞だとか、急性腹症だとか手術が必要だとか、そういったことが最初から救命士で判明できる分野であればすぐに大きな病院に行くと、それ以外の場合は市内の病院に搬送するというふうには今はここ令和3年から5年はなっております。以上でございます。

#### ○議長

はいよろしいでしょうか。それでは続きまして木村さん。

○日本労働組合総連合会 岡山県連合会 総社地域連絡会 木村代表

ちょっとこういう場に出るのは初めてなので分からない点も多くありますがよろしくお願ひします。

私、クレファクト労働組合の出身でして自動車関係の部品を作ってます。その関係で総社市の人口は増えているっていう内容が入ってたと思うんですが、自動車関連の企業といたしましては、例年の人手不足となっているっていうところで、やはり総社市自体の人数は増えてるんですけど自動車関係に入ってくる人についてはちょっと減少をたどっているっていうところで自動車業界が今100年に一度の転換期っていうところで電動化ですとか、カーボンニュートラルの関係でいろいろ厳しい状況になっておるところです。私の会社の方もありますが、ウイングバレイですとかそういったところで企業誘致とかそういうことを考えますと、総社インターの近くにですね、新しく郵政の建物ができたりいろいろそういうのはあったと思うんですけど、長年ウイングバレイとしてずっと自動車を作っているっていうところから考えますとちょっと自動車についてももうちょっと手厚くしていただけないかなっていうようなところもござひます。やはり倉敷市とかそういうところの電気自動車の購入に当たっての補助金ですとか、そういう市によって結構金額というか温度差が出てきているっていうところもありますし、総社の方で別にそういう自動車の購入補助金ではなくても充電設備であるとかそういうところの企業に対してももう少し手厚くしていただければもっと自動車産業も盛り上がっていくんじゃないかと思っております。簡単ですけど以上です。

○吉備信用金庫 清水理事長

吉備信用金庫の清水でござひます。

この総合計画につきましては福祉に関する施策というものが重要かつ優先順位が高いというふうに感じております。けれども一方で地域経済に対する施策が弱いんじゃないかなというふうに感じております。このことは今までにも申し上げたところでありまして、人口が増えて、地域が活性化するためにはやはり移住定住、創業、そして何といたってもやっぱり地元事業者の成長っていうのが、これが欠かせないのではないかなというふうに思っております。

今回のアンケートですけれども満足している、どちらかといえば満足してるっていう、これを足した比率っていう、これ低いところを見ますと、移住定住の促進それから市内企業事業者への支援とこういう項目があります。いずれも足して20%程度ということで非常に低いというふうに思っております。

私ども信用金庫といたしましては、やはり地域の発展とともに信用金庫があるというふうに思っております、2021年の5月に旧東店の後にSスタという地域活性化拠点を作

りました。これはこの総社市と商工会議所それから吉備路商工会と連携をいたしまして、移住創業サポートセンターというのを略してSスタと名付けております。ここは移住に関する相談を受けておまして専門家などに連携してワンストップで様々な面でサポートしていくっていうものでありまして、創業に関して言いますとこの2年半で約90件の相談がありました。そのうち40件はもう既に市内でちょっと近隣で開業しております。まだまだする場所がない空き家がないということで創業できていないところがずいぶんございます。そういう意味では、若い人たちにとって本当に総社市は魅力のある街に見えてるんだろうなというふうに思っておまして、そういう中でこの総合計画が部長の方からご説明がありましたように、7年8年目ですか。ですから2年のうちに新しい計画を作るといふことでありますので次期の計画の中にぜひともこの移住創業、それから地域事業者の成長に向けた施策っていうものをぜひ盛り込んでいただきたいと。

それから最後に昭和地区それから、川西地区の話が冒頭でありましたけれどもこれは人口減少が深刻ということで当然しっかりとした施策っていうのが必要でありますけれども、ここで市庁舎もこのタイミングで立派なものができるわけですから、この市庁舎の周辺、あるいは駅前などの中心市街地も若い人たちにとって、それからこれからの人たちにとって魅力あるまちにしていくことが必要かというふうに思いますのでこれもぜひ次の計画に盛り込んでいただきたいと思います。

我々信用金庫といたしましても地域の事業所とともしっかりと情報を共有しながら、知恵を出してサポートしていきたいと思っておりますのでぜひよろしく願いいたします。

#### ○青年会議所 太田理事長

青年会議所の太田です。

全ての課題について100%にしていってというのは大変難しいところはあると思うんですけど、第2次総合計画の基本計画、これを見させていただくと岡山倉敷に並ぶ新都市総社ってところで、少しやはり商業施設などそういったところに目を向けるとずいぶんハードルが高い目標なのかなというふうにも思います。ですがやはり住み続けたいまち総社ってところでは中国地方においても2年連続ですかね第1位というところで私もこの総社でずっと住んでいるんですが本当に住みやすい街だと思いますし、ですが、少し悪い言い方をすれば住みやすい田舎といいますか、ちょっとそういうふうなところも思うところがあります。本当に住みやすいまちでありますのでそういった魅力を強みにしていっていいところもありますし、少数の意見というところの課題も解決していかなければいけないというところがありますので、難しいところはあると思いますがそういったところで解決をしていただければと思います。以上です。

#### ○スポーツ協会 荒木会長

スポーツ協会の荒木です。

スポーツ，文化，生涯学習という中でも例えば定期的にやっておるスポーツ，それからまた職場なんかで行うスポーツ，あるいは地域なんかでするスポーツをどのように捉えておるかということとスポーツをすることとスポーツを見るものがあると思いますが，そのあたりをもう少し細分化した方がいいんじゃないかと思っております。以上です。

○シルバー人材センター 岡理事長

シルバー人材センターの岡です。

私どもがちょうど昨年一昨年に市と防災協定を結びましてちょうど2年になるんですけど，今回ちょっと防災についてお話をさせていただきたいなというふうに思っています。

まずそれとは別に昨年からクロス分析をいたしまして，非常に仮説も立てやすいし非常に理解がしやすいかなというふうに思っています。

先ほどの防災・減災についてなんですけど14ページの方にありますようなまず防災の面で施設の全般では，非常に満足しているということで非常に高い数値が出てます。しかし，昨年と比べまして全く知らないとか不満は全く一緒なんですね。次に社会基盤の整備ということでここは不満が実は9%ぐらいあります。それから防災を受け止める体制ということで，この全体では知らないということが非常に増加しております。これをクロス分析でちょっと見てみますと先ほど言いました年齢別で例えば災害に強い部分ということで，昨年と一緒なんですけれども，高齢者のところ50代60代のところの不満が増加をいたしております。

次に社会基盤の整備ということになりますとこの辺も同じような格好で高齢者の方が増えておるといようなことになってます。

それから3番目の自主防災とかそういった体制の整備ということなんですけども，ここは30代，40代の方が知らないということが非常に多いわけです。これを仮説を立ててみますと今まで高齢者の方がいろんな地域の防災の訓練とかそういうようなところがたくさん出ていて，いろんなことを知っている。でも，30代40代子育て世代の人はほとんど興味がない，知らないっていうのが見えてくるんじゃないかなというふうに思っています。

それで評価が低いのは何かということになりますと防災のところは50回やろうということを出ているんですけど，今年は21回ということです。昨年が17回だったと思うんですけども，この辺で小学校単位での防災訓練とかいろんなことは組織的にやっておられると思うんですけども，大きなところでなかなかやってないというのが一つの見えてくるのかなというふうに思っています。

そこで近頃，南海トラフとか東南海とかいうことで地震の報道が多いです。先般も小さい地震が非常に多いというように一つ提案なんですけれども，大規模な防災フェアを開催したらどうかというふうに思っています。吉備路マラソンが2月あり，夏には雪舟

フェスタということであります。なので秋にこういったものを全市をあげた防災フェアを1回やったらどうかというふうに思っておる次第でございます。ちなみに倉敷市は、この11月23日に水島中央公園で第2回の防災フェアをします。1万人以上おられるということです。ここは中心になって動いておるのが市と防災士の会です。防災士の会というのが全国で26万人おられます。岡山県で約4000人おるんですけども、東南海地震の関係で非常に影響を受ける愛媛県、四国ここは2万3000人ぐらい。それから大分県で1万3000人ぐらいおられる。要はそういう部分でいけば、岡山県は非常に少ない。総社市今何人おられるかわからないんですけども、倉敷市ちなみに800人ぐらいおられますけれども、こういったものを活用していくという必要があるんじゃないかなというふうに思っています。そのためには、総社市は消防団の組織がしっかりされておりますので、この辺を活用して防災士の資格をとって普及していくというのが一つの活用かなというふうに思っております。以上でございます。

○晴れの国岡山農業協同組合 茅原理事

失礼いたします。農協の茅原です。

ちょっと事前に資料を見れなかったんで細かいところはわからないんですけど、私の方からは農業についてお話させていただければと思います。

農協というのは基本農業に取り組む方が組合員になっての組織なんですけど、総社市もたくさんの方が加入をされております。一言に農家と言いましてもいろんな形の農家がありまして、専業で農家をしているところ、それから兼業で農家をしているところいろんな形があって一概には言えないんですけども、やはり総社市で言えば米農家が大半を占めてるわけなんですけど、この米農家という人はほぼ兼業農家で、他に仕事をされておったりとか、定年されて米を作られてるとか、農地を持ってるからという形が多かったんですけど最近では、米作りも大変で、特に一番農業全般の問題として高齢化、担い手不足というのがありまして、農地はあるけれども、米をやっていく体力がない。機械がない。いろいろやってくれる人がいないという形で問題があります。今、農地はあるけど作ってるのは他の人に委託してやってもらってる。そういうところも多くて受けてくれたらいいんですけど場所、立地によたらなかなか受けてくれないところもあるし、そうしたところが作付けされずに荒廃していくとかいろんな課題があるんですけども、農協としてもその辺も何とかやっていかないといけないなという思いです。

この総社市というのは農業に対してはやさしいまちだとは思っています。私も農林課等々といろいろ協力してやっていますが農林課は大変理解もあって、よくやってくれますし市全体として農業には理解ある市だとは思っております。この総社市内の米に限らずいろんな副産物もありまして、特に桃とかブドウとか生産組合があって、若い人もたくさん元気であって、全国に発信し大阪・東京など色々なところへ出荷しております。またそう



いった生産組合員が中心となって、新規就農者を確保するために全国発信で募集をしています。なので、年々わずかではありますけど、県内外から総社市で農業したいと集まってきた今県の研修の制度とかもありまして、そういうことも活用しながら就農して少しずつではありますが就農者が増えたりしております。ただ高齢化で農地はあるけど、耕作ができないそういった問題等も考えながら今いろんな課題があるんですけど、それも一つ一つ市の方の施策にも盛り込んでいただいてやっていけたらなとは思っております。

また、アンケート内容ちょっとまたゆっくり見て多分思うこととかたくさん出てくるんだろうなとは思いますが、また次の機会などにその都度話していければなと思います。以上です。

#### ○近藤副会長

失礼いたします。この総合計画の将来市像のところにもありますように、全国屈指の福祉文化先駆都市を目指すということが目標となっています。

また、総社市は本当に歴史的な街でいろんな文化財がたくさんある街だと思います。こうした中様々な世代の人ですとかあるいは様々な困難を抱えた人々に対して、文化的な活動をより一層充実していく必要があるんじゃないかなというふうに思っております。福祉・文化っていうのは本当に近い関係にある概念だと思っております。全然違うことではなくても、一体化したような概念といっても過言ではないと思っております。前からそういうふうには思っていたんですけども最近パリで調査をしまして、やっぱり芸術の国のフランスではとても本当に日本と違って文化的な活動支援がすごく充実しています。そういったことが結局あらゆる世代の人にとって豊かな暮らしをもたらすようなことになると思いますので、今一度文化というところ、そして福祉というところに焦点を当てて施策を考えていただけないかなというふうに思います。以上です。

#### ○議長

はい。ありがとうございました。

それでは事務局の方から説明をお願いします。

#### ○事務局（総合政策部長）

はい。委員の皆様方大変貴重なご意見ありがとうございます。非常に多くのご質問いただきましたのでちょっと十分でないお答えの部分もあるかもしれませんが、いくつかお答えをさせていただきたいと思っております。

まず、最初に数字の関係でございます。佐野委員からご質問がございました。まず待機児童の関係でございますけれども、現在のところ待機児童の数9名。それから園限定ということで、いわゆるこの園に入りたいんだけどというようなところが他の園に入ってい

ただそういうようなところが163名というような状況になっております。こちら子育ての関連で中田委員の方からもいろいろご指摘ありましたが、やっぱりなかなか思った園に入れないというようなところであったりとか、長時間預けるといのが難しいとか、そういうような課題、いくつか抱えているというふうに思っています。そういった中で一つはロングタイムの幼稚園をこうやるであるとか、夏季のときにも少し預かれるような施策を打っていくとかそういうことを市としてもしっかり引き続きやっていかなければならないんだらうなということを感じております。やはりその後は根本的にしっかりこの待機児童であるとか保育園にしっかり預けられる体制これを作っていくという中で、一つ認可外の保育園というものも含めて、どういった形で市内にいる子供たちを受け入れる体制を作っていくかこういったことをしっかり考えていきたいなというふうに思っております。

それから続きまして認知症の数というようなところもご質問ございました。現在市の方で把握をしている認知症と思われる方の数、2135名令和5年の3月末ということでございます。その認知症と思われる方の数、2135名ということでありますけれどもそういった中で認知症対策ということで言いますと、サポーターというところを募って認知症の方のケアをしていくというようなことを実施しております。人数ということに関しましては、このKPIのところでも充足をしてきているという状況でございますので、こういったサポーターにも協力をしていただきながらこの認知症の方に対して生活がしやすいような環境をサポートしていくという取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

それからもう一つ、数字の関係でご紹介をさせていただきたいなというふうに思っておりますのは、木村委員からご質問ございました自動車関係の補助ということでございます。自動車関係ということで申し上げますとEV電気自動車に対する補助ということで、現在、10月末で1台15万円の補助、計62台を補助しているというようなことでございます。これで十分か十分でないかという話は当然あるかとは思いますが、こういった支援も行いながら自動車産業も総社市にとって基幹産業の一つというようなこと的位置づけになっておりますので引き続きこういったことができるかというのは考えていきたいなというふうに思っております。

数字の関係は以上ということでございますけれども、その他にまずアンケートにつきまして全く知らないというような割合が多いものがいくつかありますというふうなご指摘がございました。私もこのアンケートの結果を見て、やっぱりこの黄色の部分の全く知らないの割合が多いものが非常にあるなというふうなことは思っていて、ここをどういった形で施策を市民の方に知らしめていくかというところでいうと、一つは広報そうじゃは9割以上の人が見てますよという話があったりとか、そういったところも活かしていきながら、またSNS、こういったものを若い世代の人はよく見ているというふうなところもあるのでこういったところでの発信というのもしっかり考えていきたいなというふうに思っています。特に、子育て支援について結構20代が知らないみたいな割合が多いみたいなところ

もこのクロス集計の結果から出てきまして、本当にリーチをしなければならない層にきちんと届けるといのは非常に重要なことかなというふうなことを思っております。

それから最初に風早会長の方からご質問ありましたけれども、この結果の中で一番成果が出たところっていうのはどういうところだというふうに認識をしていますかというご質問ございました。これなかなか難しいところだと思っておりますけれども、やはりこちらお配りしている資料の中で満足している、どちらかといえば満足しているというような回答をした割合が高い項目として挙がっている感染症対策は早い対応というのが非常に市民の方には、引き続き満足度を得ているなど感じております。その他防災関係でこういった災害に対しての姿勢というのは多くの市民の方に満足度を得られているのかなというふうなことは考えております。

それからアンケート全体ということで申し上げますと、この集計の結果というのはやっぱりどういうふうに活かしていくのかというのは非常に重要だなというような御指摘いくつかいただいたかなというふうに思っています。先ほど10代のところで住み続けたいという割合がちょっと低いんじゃないかというような御指摘ございました。こちらの原因というような話でちょっと申し上げますと、冒頭説明の中でもあったんですけどサンプル数にちょっと偏りがあって従来、18歳からを対象としているということがありまして年齢別で見ると10代18名というようなサンプリングの数というふうになってます。なのでちょっとこれが例えば2割ぐらい低いというのはその統計の癖といいますか、そういったことによって生じている可能性もあるし、ただ18歳のサンプルの中でそれぐらいの結果が出てるといようなこともあるので、そのところが住み続けたいというような魅力が低くなっているのかどうなのかというのはこの結果、プラスアルファでしっかり見ていかなければならないのかなというふうに思います。

地域の結果をどう活かしていくかというところでやっぱり更なる地域の調査これを生かしてヒアリングをして、実際にどういった施策を打っていくのかというある意味これをヒントにしてより深掘りをしていかなきゃならないというのはあるのかなというふうなことは考えております。

子育て王国ということについていくつかご指摘があったところ先ほど申し上げたところでもございますけれども、なかなかこれらの移住施策とか定住施策ということをやっても子育て王国というのを掲げてやっておりますので中身がしっかり追いついていかないと来てがっかりするとか、実際今住んでる人も子育て王国って何なんだろうねというふうに言われないようにしっかり子供を育てやすい環境というのを整えていかなければならないんだろうなというのをちょっと改めて認識しておりますし、また次期総合計画、またこの総合計画の期間にもこの子育てに対する支援というのは何ができるかというのをしっかり考えていきたいなというふうに思います。もちろん例えば幼稚園の給食をやったりとか、また今回その給食費の無償化ということで中学生以下の皆さんに対する支援を行ったりと

か、また医療費の無償化ということに関しても、今後どの年代までやっていくかとかいろいろな課題がありますけれども、一つ一つしっかり期待に応えていけるような施策を打っていくべきだろうなというふうに考えております。

それから、地域経済に対する支援でありますとか、移住定住の促進ということで今Sスタさんとも一緒にいろいろやらせていただいておりますけれども、非常にこちらの私も市内外ともに期待が高いなというふうに感じております。その中でももちろん創業しやすい環境整備というところに市も引き続き取り組みを進めていくということ必要だと思っておりますし、あと中心市街地ですね。ここの魅力アップということも次期計画の中でしっかり盛り込んでいけるようにまた来年度になってしまうかもしれませんが、計画を作るという段階で皆様をしっかりご議論をいただいて我々としてもこの施策を結実させていけるようにということを考えております。

それから岡山倉敷に並ぶ新都心というようなところもある意味中心市街地の活性化、そういうようなところというのもしていくと更なる魅力のアップ、また言葉にたがわないようなまち作りというものをしっかりしていくというようなところかなというふうに思っています。

それからスポーツの分野というところでは、こちらをもう少し細分化をして調べてみてはどうかというようなお話あったかと思っております。こちらアンケート全体の設計というところで、施策にどうやって活かしていくかということもございますけれど経年で調査をしている部分とまたそこを細分化していく必要がある部分というのは他の調査の設計というのを今後またこれはある意味次の計画を立てるときに施策やっぱりこのアンケートの連動性というのをしっかり考えていければいいかなというふうに思っております。

それから防災の関係です。こちらについてもいくつかご指摘をいただきましてありがとうございます。一つ大規模な防災フェアというのを実施をしてはどうかというようなところであるとか、防災士の育成というようなところにも取り組んではどうかというようなご意見を頂戴したというふうに思っております。やっぱり私はこの4月に着任をしてこちらに来たというところではありますけれども平成30年の豪雨というようなところの経験というのがこの市民の中には非常に根付いているなと思う一方で、これ5年経って10年経ってとなってくるとなかなかその意義をしっかり維持をしていくというのが難しくなってくる部分もあるのかなというふうなことでありますので、いろんな地域で地道にこういう防災活動をしているところと大きなものをどういうふうに組み合わせしていくかというようなことを検討したいというふうに思っております。総社市内の防災士の数ということでいうと現状82名ということでございます。また、こういった防災士の方の力というのをどうやって借りてこの防災意識を高めていくかということをして市としてもしっかりまた検討をしていきたいというふうに思っております。

それから最後、農地の関係でございますけれども、農地の関係につきましては、荒廃地の問題などは非常に大きな問題ということで市の方も認識をしております。そういった中で例えば流動化推進委員の制度であるとかそういったようなところで配置が多くならないようにしっかりマッチングをしていく、そういうようなことも市として引き続き取り組んでいきたいなというふうに思いますし、また新規の就農という方もやっぱりそれなりに入ってきていただいていると、桃とかそういうようなところが入ってきてもらっているというようにも聞いておりますし、私も移住フェアなんかに行ったときに、農業やりたいんだよなというような希望を持った方何人かお話をさせていただいております。そういったようなところの魅力の発信というようにところにも市としてしっかり引き続き取り組んでいきたいそのようなことを考えてございます。

以上ざっとでございますけれども皆様方からいただいた意見ちょっとお答えが足りない部分もあるかもしれませんがもお答えをさせていただきました。また今日、短い時間で十分に資料も見きれていないといった方もおられましたけれども、また随時皆様方からいろんな意見もいただきながら市の施策をしっかり推進をしていきたいというふうに考えてございます。またちょっと足りないところありましたら引き続きよろしく願いいたします。

#### ○議長

はい。ありがとうございます。PTAの中田さんから子育て王国の割にはいろいろな問題があるとか、例えば英語特区についても当事者等のところでいろいろあるというお話があったと思うのですがそのあたりこども課の関係の方からおられたらお願いいたします。

#### ○事務局

そうですね。ちょっと本日、こども課の担当が来ていないのですが義務教育学校の件につきましてということで申し上げますと、教育長途中で退席をさせていただきましたけれども、英語特区の内容がもう少し十分なものとかが、また今度環境留学ということ掲げてやっていきますというところでもありますので、その辺りちょっと担当の教育委員会にも話しを繋いでどういったことができるか検討していきたいというふうに思います。

#### ○近藤副会長

子育ての関係で教育長いらっしゃらないということで待機児童の問題なんですけれども、総社市で一番大きな問題は、既に待機児童の方が9名いるってということもそうなんですけど、入りたい保育所に入れない。国の施策からすると待機児童とカウントされない待機児童の方が163名いらっしゃるってということなんです。つまり、国の基準にすればそれほ

ど多くの待機児童はいないんだけど、入りたいところに入れられないという、その問題をどういうふうに解決したらいいかっていうことが大きな問題です。それを解決するためにはたくさんその場所に保育所を作ったらいいのかとか、あるいはそのためにたくさんの保育士の方を補充したらいいのかっていう問題があるんですが、なかなか財政的な問題もありまして、全ての方のニーズには答えられないみたいなどころがあります。だからそのところをもうちょっと利用者の方にもご説明していろいろ対談するような場を作っていただくといいんじゃないかなというふうに思います。

それから、小学校の学童保育に関しましては、本当にこちらは国の方では小学校1年生から6年生まで学童保育を用意することになっているにもかかわらず、それがちょっとできていないという現状があります。実はこちらでも学童保育の先生が見つからないという人材の問題が非常に大きくありまして、人材確保が難しいという、そういう問題があります。ですからそういうところをもうちょっと市の方も、保護者の方と面談などしてご説明いただく、また努力してそれを拡充していくっていうことしか、解決方法はないのかなというふうに思っております。ただ、就学前の教育と学童保育に関してはそうなんです、それ以外にはひきこもりに関する施策ですとかあるいは小学校でも誰もが行きたい学校作りというプログラムを展開していて、他の自治体に比べてとても不登校の子供の出現率が低かったりとか独自にやってるプログラムもいろいろありますのでそういったところも皆さんにちょっとアピールしていただいたらいいのかなというふうに思います。以上です。

#### ○議長

それでは、少し時間を延ばすんですけれども清水さんとか木村さんの方で市内の事業所への支援といいますか、それについては他の市がしてるけど総社市はしてないというところもありますのでそのあたり質問をさせていただきます。

#### ○事務局

はい、ありがとうございます。今ご指摘をいただいているように市民向けのサービスというものが非常にある意味ソフトの事業で市として力を入れてきた部分かなりあるかなというふうに思っています。そういった中で企業向け事業者向けの支援というようなところにつきまして少し十分ではないんじゃないかなというようなご指摘があったのかなというふうに思っております。そういう中でどういった施策を実施をしていくかということと言えますと、一つ移住創業というように言うとSスタさんと一緒になって移住をするため、創業するためのサポートをしていたりとかしております。あとその他事業者支援ということに関して、もう少し何かできることがないかということは引き続きの検討をしたいというふうに思います。

#### ○産業部 西川部長

失礼します。産業部長の西川と申します。

先ほど総合政策部長の方も説明しましたがSスタ、これは商工会議所・吉備信用金庫・総社市・吉備路商工会ですか一緒に立ち上げたもので、大変画期的で清水理事長もおっしゃったように、かなりの実績を出しておりますので、ここの部分については引き続き連携してやっていきたいと思っています。

それから大きい問題として人手不足の問題がございます。これは雇用開発協会とか、そういった部分で商工会議所とも連携して事業所の皆さんもメンバーになっていただいでどういうことができるかというのを一緒に考えているような状況でございます。市としてできるのは就職面接会の回数を増やしたりですとか、あと学校への訪問でございますとか、そういったことを地道にはやっていってるんですが、なかなかちょっと成果に繋がるのが難しいという部分はございますので、引き続き連携して、商工会議所とかですね、関係団体とも連携して考えていきたいと思っておるところでございます。以上です。

#### ○議長

最後に南海トラフ地震はあまり総社は関係ないと思われていますが、総社市は9m～13mの津波が起きると言われています。全く安心していると全員死んでしまうということです。岡山県法人会連合会のHPで私が講習もしています。県南は対策をしているけど総社市はしていないということです。笠岡市は市を挙げて防災フェアをやっています。総社市も南海トラフ地震について、何か防災についてやっていくべきかなと思います。

それでは、来年度からは次期計画に向けて、10年先のことを皆さんで考えていくようになりますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。それでは事務局に戻します。

#### ○事務局

本日は貴重なご意見いただきまして皆さんありがとうございました今後の予定に関しまして少しご説明させていただきます。本日お配りさせていただいた資料および審議会の事項について総務生活委員会に報告させていただきます。

それでは閉会にあたりまして、近藤副会長様よりご挨拶をお願いいたします。

#### ○近藤副会長

今日はお忙しい中、様々な現場からの貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。このご意見をもとに具体的な施策を市の方では展開していただけたらというふうに思っております。お話を聞いておりましたやはり少子高齢化社会ですとかあるいは経済

的な問題それから防災の問題で様々な問題があるんだなというふうに改めて思いました。未来を見据えた施策をどんどん新しく展開していただけることを願っております。今日は本当に誠にありがとうございました。

○事務局

それでは、これをもちまして、総社市総合計画審議会を閉会いたします。

皆様、長時間ありがとうございました。